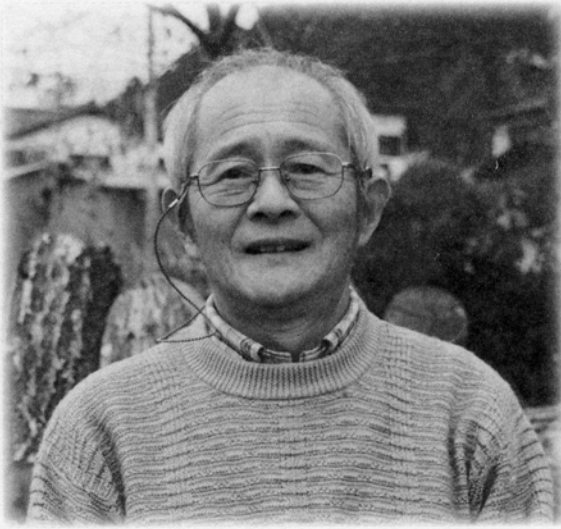


さいたまここに人あり

自分たちが使う電気は自分たちで

暮らしを変えろしくみをつくる



国際協力NPOソーラーネットワーク代表

桜井 薫さん

原子力は

夢の社会じゃない

私は東北大学で原子力工学を学び、小出裕章さん（元京都大学原子炉実験所助教）は同窓にあたります。大学へは原子力に希望をもって入学しました。

しかし、当時は放射能の危険性が知られておらず、実験でも素手で放射性物質を扱ったり、原子核の先輩が帰ってくるにゲージ吐いていたり、これは危ないと感じるようになりました。原子力は、僕らが夢見ている「アトムの社会」ではないんじゃないかと思うようになりました。自分が「怖い」と思ったのが、一番最初のきっかけかもしれません。大学か

られた流しにされた放射能汚染物が住民から問題にされたり、女川原発反対闘争などをみて、もうダメだと思いました。

その後、原発の運動にずっとかかわって来ました。1989年だったか、当時住んでいた東京の国立駅でビラを配っていたら、通りすがりのひとに「そんなこと言うなら電気を使うな」と言われ、口論になりました。それならやるぞ、と始めたのが、太陽光発電でした。電気を極力使わない生活を始めたんです。

プロフィール 1950年、新潟県生まれ。小川町自然エネルギーファーム理事。自然エネルギー事業協同組合レクスタ理事。NPOふうど副代表。(有)エルガ取締役。小川町在住。

自然に負荷を かけない暮らしを

1998年頃、埼玉の小川町で有機農家の人たちが一緒に暮らして、自然エネルギーで自分たちの暮らしをつくらう

と「自然エネルギー学校」を開催して、自然エネルギーを暮らしのなかに取り込むというスタンスで、メタ発酵槽や太陽電池、竹炭、柿渋、そういった自然に負荷をかけない暮らしをしようと活動していたんです。僕は、そこで講師をしていました。それが、いまのNPOふうどにつながっています。

そのながれで、自然エネルギーの事業協同組合を東京から移しました。都会では倉庫が借りられないので、行き場を探して小川町に行き着きました。

当時、有機農家の金子美登さんたちやメタン発酵槽のプロジェクトをやっているひとが小川町にいて、大きなゴルフ場建設反対運動なども起こり、小川町は市民活動がさかんだったんです。だったら、このまちに居を移してもいいなと思った

んです。

それまで仕事はフリーターのようなもので、職人をしたり、太陽電池を仕事にしたりしていました。当時は誰も手をつける人がいなかったもので、これが今の有限会社エルガになります。ここでは、一般の家庭などに太陽光パネルを設置する仕事をしています。

市民電力会社 づくりへ

NPOふうどの活動のひとつは、15年前から始めたメタン発酵槽です。自治体の委託を受けて、学校給食や団地の住民などの協力で集められた生ゴミをタンクに入れてメタンガスに変え、液肥は大地に戻す——若い有機農家が肥料として使っています。メタンガスはホンダの協力で発電しています。そろそろ売電もできそうです。坂本龍一さんたちのap bankの第一号融資先で、それは返済を終えました。

小川町自然エネルギーファームでは今、3・11以降、自分たちの電力会社を

つくらう、と若い人が中心になって動いています。発電会社ではなく、市民電力会社ですね。小川町では市民出資の共同発電所が2基あります。電力会社もつくりたいと、30代、40代の若い人たちが夢をもってやっているんです。すごく頼もしいですね。

大きな影響を受けているのは、ドイツの「シエーナウの想い」という映画です。シエーナウというドイツの小さな村のおばさんたちが、チェルノブイリ以降、反対運動を通して電力会社をつくってしまったんです。最初、僕はドラマ（フィクション）かと思ったんです。でも、実際にあった話なんです。うわースゲーや、やられちゃったな、と思いました。これまでに、発展途上国につくった太陽光電池を送る活動をしてきました。そうしたなかで起こった東日本大震災では、手もとにあった太陽光発電パネルを被災地の避難所に持っていったんです。これに二十数団体の市民団体が集まって、「つながり・ぬくもりプロジェクト」になりました。2年間で8000万円の寄付が集まり、避難所や福祉施設など160カ所で太陽光パネルや太陽熱温水器などを設置しました。

当時、被災地のガレキのなかを電力会

社の建柱車（電柱を建てる車）が走り回っているんですよ。まわりはガレキです。

そこで電力会社がどのくらいお金をつかったかわかりません。その電柱がどこにいくかというところ、避難所なんです。わざわざ電柱を建てるので、太陽電池を持っていけばいいじゃないか。ぼくらは8000万ですが、むこうは何十億かけているかわかりません。太陽電池をもっていけば、即時電気がつくんですよ。

なんでこんな簡単なことがわからないのか。危険だとわかっていてもやめられない、いまの原発もそうですよね。それを見たときに、ゾッとしました。こういうひとたちに自分たちの未来を任せるなんてダメだなと感じました。

電力会社に任せたらロクなことにならないってことは、3・11でよくわかりました。そういうなかで、語っているだけではなくて、自分たちでしくみをつくっていかうと。評論家はたくさんいるんです。でもそうじゃなくて、暮らしを実際に変えていくしくみをつくることをベイスにやっています。それが、自然エネルギーファームが市民電力会社をつくるということ、メタン発酵槽が循環型社会を

つくるということですよ。

「平和は大事」 チャドで感じた

いま、小川町で太陽光発電の普及をおこなうNPOソーラーネットというのをやっています。昨年の熊本地震では南阿蘇村に太陽光発電システムを支援したり、手作り太陽光発電の出前講座で全国キャラバンなどをおこなっています。

NPOソーラーネットは2015年から国連の外郭団体であるIOM（国際移住機関）の依頼で、チャドへ手づくり太陽電池の技術指導へ行っています。支援する相手は帰還難民なんです。チャドからスーダンに逃げてきて、その後チャドに帰ってきたひとたちです。その女性たちに手づくり太陽電池のつくり方を教えています。やりがいは非常にあります。なにより、やっついておもしろい。喜んでくれるんです。

現地で電気を使う一番のものは、携帯電話です。これが銀行になるんです。電子マネーです。その日暮らしのような難

民の人たちですが、社会はどんどんすすんでいます。難民というと暗い部分しか報道されませんが、僕が行っているティシという町では、少なくとも暮らしに根ざした生活があるんです。

初めは技術指導でいったんですが、昨年行ったときに、彼女たちはつくった太陽光発電に値をつけているんですね。売れる値段はなにか、喧々諤々議論しているんです。「ここまでできたか」と思いました。難民の方ですから、大きな傷をおっていたはずなんです。それが3年経って、自分で前にすすもうという気持ちが出てきている。その場に一緒にいられるというのは、非常におもしろいですよね。



議論するチャドの女性たち

今回チャドに行つてつくづく感じたんですが、1年目はもちろん喜んでくれるんですが、ちよつとよそよそしい。2回目、3回目と行つたら、現地の市場が非常に活発に元気になってきているんです。そこに暮らしている人たちも、すごくフレンドリーになってくるんです。やっぱり平和が続いて、暮らしが落ちつくにしたがつて、人間のところが溶けていくのを目の当たりにして、平和は大事だなと感じました。

暮らしを 自分たちの手に

NPOソーラーネットの活動のなか
に、僕が「爺柴プロジェクト」と呼んでいるプロジェクトがあります。昔話では、おじいさんは山へ柴刈りに行つて、これを煮炊きに使うんですよ。これは昔話ですけど、考え方を換えれば未来の話になるんですよ。いまの技術からいうと、ソージェネレーション（熱電併給）というシステムで、電気と熱を同時につくりだすシステムです。

僕が子どもの頃は裏山に薪を拾いにいき、日本のエネルギーはそれでまかなっていたわけですよ。当時のかまどの熱交換率は10%くらいなんです。それで7000万から8000万の人口を養っていたわけですよ。ソージェネレーションになると効率が65から80、90になるんです。だから、ひとつの薪が7倍、8倍のエネルギーを生むわけです。僕らの暮らしが1950年代、60年代の水準であれば、日本の山で5、6億人のエネルギーが賄える。この山は宝の山なんです。

その材木を採ってきたおじいさんがソージェネレーションの燃料にする。ソージェネレーションを動かしているのは息子たちです。おじいさんはそれを公民館などに持っていく、湧かした風呂に入つて一杯やつて帰る。そのあいだにゲームをしている息子には、「これはおじいさんがつくった電気だから心して使えよ」と説教できる。そういう暮らしっていいのは、僕らにとつて一番いい暮らしなんじゃないか。僕らはいま、間違つた暮らしに近いところにいるんじゃないかな。そういう自然エネルギーを使うことによって、自分たちの暮らしをまともにしていく、それができるだろうと思つて始め

たのが「爺柴プロジェクト」です。

太陽電池も、自分たちの手で組み立ててつくれるわけです。自分たちの暮らしで自分たちでできることは自分たちでやっつけていこう、と。食料、エネルギー、教育、すべてひと任せにしていたら、ロクなことにならない。ひと任せになっている暮らしのしくみを自分たちの手に取り戻す、というのが原点というか、目的です。

自分たちの暮らしのなかに自分たちでつくるものを増やしてほしいんです。電気じやなくてもいいんです。僕は最近家を建てました。電気は1か月30キロワットアワー、1000円くらいです。灯油は使わず、薪を使います。でも、ぜんぜん苦しくありません。LED電気にして、太陽熱温水器などを使えば、エネルギーのいらぬ生活はできます。既成概念にとらわれず、まずは始めてみてほしいと思います。



桜井さんの自宅に設置された
太陽光パネル